

## お わ り に

はじめに述べたように、今回の発表は、本年2月の発表会及び紀要第4集の「延長」線上のもので、従って新しい主題による発表としては実質的に初めてのものというべきであろう。しかしその点を割り引いてもなお、今回の発表内容には不十分な点が多く残っているように思われる。恐らくそれは、新しいスーツのようなものでまだ体によくなじんでおらず、しっくり来ないのである。あるいは、羊頭を懸げて狗肉を売るような、主題は魅力的だが実践はありきたりだと見られたり、どこでもやっているような授業をことさらに「豊かな心」を目指す実践だとこじつけていっているように思われたりしたかも知れない。しかし新しいスーツもいずれは体になじんで来るように、この主題も次第にわれわれのものになって来るであろう。もち論、そうなるためには今後の実践と研究が必要で、これへの努力を怠るものではないし、2年目にはまた2年目の取り組みがあろう。

就中、認知能力を高めるという観点から、さらには「養護・訓練」の本格的実施というねらいから行ったフロスティッグ、テストとそのプログラムについては研究を続けたい。そして、このシステム自体に対する評価と、これと他のシステム（例えばITPA）や他の領域との関連についても研究を進める必要がある。すでに、フロスティッグのシステム自体は、いくつもの学校で実施されているし、またITPAやパーデューなど、他のシステムと組み合わせて実施した学校もあるから、これら諸校の経験も学んだ上、本校独自のやり方を考えたい。

この研究の今後の展望というほどのものではないが、「養訓」以外にも検討すべき課題は少なくない。ひとりひとりの子供に合わせた治療教育的処方をもどのように用意すればよいのか、また「豊かな心、たくましい行動」を目指して、家庭との連携をどうはかるか、交流教育の機会をどう活用するか、などである。これらが一挙に進められるということはむづかしいが、これらのことを念頭におき、内部での討論をもとにして、一步一步前進して行きたいと思う。